

オリンピック パラリンピック観光推進特別委員会行政視察報告書

1 日 程 平成 28 年 11 月 10 日（木）～11 日（金）

2 視察先及び視察項目

(1) 福井市

観光振興施策について

(2) 小松市

スポーツ振興の取組みについて

3 視察委員

・委員長	田 村 英 樹	大田区議会公明党
・副委員長	高 山 雄 一	自由民主党大田区民連合
・委 員	高 瀬 三 徳	自由民主党大田区民連合
	押 見 隆 太	自由民主党大田区民連合
	大 橋 武 司	大田区議会公明党
	田 島 和 雄	大田区議会公明党
	黒 沼 良 光	日本共産党大田区議団
	荒 尾 大 介	日本共産党大田区議団
	松 原 元	大田区議会民進党
	荻 野 稔	東京維新の会大田
	犬 伏 秀 一	たちあがれ日本
	馬 橋 靖 世	大田無所属の会

4 視察項目の概要・所感

【所感】は、会派ごとに担当する視察項目を事前に割り振り、それぞれ担当会派が記載。

(1) 福井県福井市

◆主要データの比較

項目	福井市	大田区
面積（k m ² ）	536.41	60.66
人口（人）	263,600	688,102
世帯数（世帯）	97,470	360,543
歳出決算総額（億円）	1071.60	2,396.07
経常収支比率（%）	92.6	82.2
事業所数（事業所）	16,282	31,149

（東洋経済新報社「都市データパック 2016年版」から引用）

◆視察項目

観光振興施策について

【概要】

福井市では、平成 28 年春に県都の顔である福井駅西口中央地区再開発ビル（ハピリン）のオープン、平成 30 年の福井国体・障害者スポーツ大会開催、平成 32 年の東京オリンピック・パラリンピック開催、その後の北陸新幹線福井開業など、観光誘客の好機が集中する、大きな転換期を迎えている。

この好機を最大限に活かし、来る北陸新幹線福井開業を万全の体制で迎えるために、旧ビジョンの最終年度を待たず、2 年前倒しで改訂し、具体的な行動計画も含めた「福井市観光振興計画」として平成 28 年 3 月末に策定した。



（「福井市観光振興計画」平成 28～32 年度から引用）

【所感】

（自由民主党大田区民連合）

・ 2018 年には国体の開催があり、その後、北陸新幹線の延伸によって福井駅まで新幹線が来ることになっている。いかにして観光客を福井市内にとどまってもらうかが課題。

・ 福井のことを知らない、自信がない福井市民が多く、オール福井で観光に取り組む体制が出来ていない。人材の育成と組織づくりの必要があり、「観光おもてなし市民運動」を立ち上げる。

・ 学生の部活やサークルの合宿で福井市に宿泊すると助成制度がある（県と共同で）。

・ 4 月 28 日に OPEN した福井駅前の観光案内所の利用は約 5 か月で 46,477 人。

「観光おもてなし市民運動」の取り組みが印象的であった。福井市民に福井のことをもっと知ってもらう取り組み、「おもてなし講習会」や「観光おもてなし市民

運動推進大会」の開催などオール福井で観光に取り組む体制づくりは、大田区にとっても参考になる取り組みである。2018 国体開催や北陸新幹線の延伸をどのようにして観光に結び付けていくのかという課題は、羽田空港を利用する国内外の観光客に、いかに大田区内に留まってもらうかという課題と同じである。観光客向けのパンフレットの作成や観光情報センターの充実なども重要ではあるが、大田区民にもっと大田区を知ってもらい、大田区を好きになってもらって、観光客に自信をもって大田区を紹介できるようになってもらうことも大切なのではないだろうか。



また、福井駅前の観光案内所は、観光案内だけでなく、鉄道やバスの切符の手配、宿泊先への手配物配送など、さまざまなサービス行っていて1か月10,000人近くの利用がある。大田区の観光情報センターでも参考にして、観光客をサポートする取り組みをもっと取り入れ、利用客の増加に繋げていかなければならないと強く感じた。

(日本共産党大田区議団)

2016年11月10日、福井県福井市の観光施策について視察しました。福井市は福井県の県庁所在地ですが、観光資源の掘り起こしということで市内を8エリアに分けてそれぞれの地域の特色を紹介しながら積極的にPRを進めています。特に一乗谷エリアは戦国大名として著名な朝倉氏の居城があったことを活かし、CM撮影や映画ロケ等を通じて観光客誘致に取り組んでいます。また、歴史上の著名な人物にゆかりのある史跡を巡る地図などを作成しています。



福井市は周辺自治体（永平寺町、東尋坊のある坂井市三国町など）と比較して観光資源に乏しいという中、いかに観光客を誘致するかという点で苦心していることが、担当者の方からも話されていました。観光資源の掘り起こしや、市民の皆さんの参加によるPR、インバウンドにも対応した総合的な取り組みは、区の観光施策にも参考になるものと思いました。

福井駅前にある再開発ビルの一 corner に観光案内所ウェルカムセンターが所在し、駅に至近で簡潔な造りとなっていて非常に解りやすい印象を受けました。観光案内はもちろんのこと、公共交通の切符の手配、レンタサイクル、雨具や車いすの貸し出し、手荷物配送など、観光客のニーズをしっかりと充足している点は参考になりました。

(東京維新の会大田)

福井と言えば、恐竜というのは率直な私の感想だった。

以前、行政の広報、営業に関わる本で読んでいたからというのが理由であるが、実際には福井県の事業であり、福井市のものではないことを認識した。

北陸新幹線の金沢延伸に伴って、観光客の増加、または増加を期待できる要因は拡大したように思うが、実際にその観光客を受け入れる体制が市内で取れているのか。ここが疑問であると考えている。

観光案内所（ウェルカムセンター）に宅配やレンタルサイクルの他、観光客に必要な要素を集積していたのは評価でき、この部分は大田区も大いに参考にするべきところだと思うが、おもてなし、市民意識という意味では、まだまだ不足しているのではないだろうか。

市中の方に聞いても「福井市の観光資源は何があるだろうか」との疑問の声を多くいただいた。

確かに要所要所、施設や交通などで良い部分もあったが、肝心の市全体での意識はまだまだ低いのが現状ではないだろうか。

民間による観光の機運の醸成、大型の遊園地など、観光名所ができることによつての誘客という場合は異なるが、行政が旗を振って観光の機運を盛り上げていくことの難しさと、住民との連携、意識の浸透も非常に重要であることを認識した視察だった。

(2) 小松市

◆主要データの比較

項目	小松市	大田区
面積 (k m ²)	371.05	60.66
人口 (人)	107,513	688,102
世帯数 (世帯)	40,308	360,543
歳出決算総額 (億円)	417.53	2,396.07
経常収支比率 (%)	92.4	82.2
事業所数 (事業所)	5,895	31,149

(東洋経済新報社「都市データパック 2016年版」から引用)

◆視察項目

スポーツ振興の取組みについて

【概要】

小松市では2012年3月に策定した「小松市スポーツ推進計画」において次の基本方針等を定め取組みを行っている。

《基本方針》

- ① トップアスリーの育成・強化
- ② 学校における運動・スポーツの充実
- ③ ライフステージに応じたスポーツ機会の創造
- ④ 魅力あるスポーツ施設の整備・充実
- ⑤ スポーツ交流の推進

また、小松市は 1991 年に竣工した国内唯一のカヌー専用競技場である木場潟カヌー競技場を有している。同競技場はナショナルトレーニングセンターに認定されており、毎年、日本代表チームが強化トレーニングで年間 150 日以上の使用実績がある。

《木場潟カヌー競技場》

○主な大会開催実績

「北京オリンピックアジア地区最終予選会(2008 年)」
「日本カヌースプリント選手権(2002 年～現在)」など

○主な合宿受入実績

「北京オリンピック事前合宿 アメリカ、フランス、ベルギー、
日本(2008 年)」

(「小松市スポーツ推進計画」、「石川から最高の舞台へ」から引用)

木場潟カヌー競技場 Kibagata Canoeing Lake



コースや練習などで専用使用できる水上



浮橋



瀬上通路

「Canoe-ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設(カヌー競技)パンフレット」から引用

【所感】

(大田区議会公明党)

小松市の面積 371,05 km²。人口 107,513 人(40,308 世帯)。県西南部、加賀平野のほぼ中央。

空港・高速道路・鉄道が整備され 2023 年には新幹線開通など、交通アクセスの良さと豊かな自然環境を活かした産業・観光・スポーツなど様々な取り組みが積極的に行われており、スポーツにおきましては、平成 23 年 6 月に「スポーツ基本法」

が公布され、基本法に基づき、スポーツ振興施策を総合的かつ体系的に定めた「小松市スポーツ推進計画」を策定され、平成23年度から平成32年度までの10年間を計画期間とし「豊かなスポーツライフ」を推進され、子どもから高齢者まで多くの方々が、スポーツを通して、健康づくり、仲間づくり、生きがいに取り組むことができるまちを目指し取り組みが行われており、更に世界や全国の大会で活躍できるトップアスリートを輩出するまちを目指し「チャレンジスポーツ2020」として、2020年までに世界大会・全国大会出場選手720人以上との具体的な目標を掲げられ取り組みも行われており、この度オリンピック パラリンピック観光推進特別員会で視察訪問してまいりました。

小松市は、市内にある「木場潟カヌー競技場」は日本選手権やジュニアカヌーなどの全国大会、オリンピックアジア最終予選会の会場など国内唯一のカヌー専用競技場として使用されており、日本カヌー連盟公認のカヌーのメッカ、世界的にも有名であり、現在「NTC(ナショナルトレーニングセンター)」と言うオリンピックでのメダル獲得を目指し、トップレベル競技者が集中的・継続的にトレーニングを行うために文部科学省が指定された強化拠点施設となり、平成21年より委託を受け、効果的な医・科学サポートのトレーニング環境の整備が行われております。

実際、現地を視察させて頂くと1,000メートルのカヌー専用競技場となるとかなり広大であり周囲は6.4キロメートル、のどかな里山の風景が広がり練習するには絶好の環境。お聞きするところによると、以前は水質がよくなかったが、全市民・近隣、市町村の方々のご協力を得て、水を出したり、ヘドロを除去したりと、努力を重ね現在は水質も良くなっているとの事で、小松市民の方々の情熱と意思を感じました。

設備では、強化拠点施設として、国際カヌー連盟認定AAA級コース、決勝タワー、艇庫、研修センター、トレーニング施設（市場の倉庫を活用されており、場所の確保にご苦労されている事も垣間見えた）なども充実しており、車いすの方でも利用しやすいよう今後スロープも、整備をされるとの事で、さらに充実した競技場になる事が期待されます。

トップアスリートの育成・強化においては、市内のジュニアスポーツ選手、中高生のトップアスリートとその指導者・保護者などを対象に、選手の育成・強化と科学トレーニングを実施されており、小学生対象にサッカーや、走り方教室、スポーツ教室、セミナーなども開催されております。また、幼稚園・保育園の園児に向けて、運動神経を良くする運動のDVDを作成されるなど、取り組まれております。

市民との交流では、ナショナルチームが合宿で来られている場合は、市民のイベントに参加して頂いたり、小松市スポーツフェスティバルにおいては、カヌー体験など市民の皆様が、実際スポーツにふれあえるよう取り組みも行われているとの事でありませう。

今回の小松市の視察を行い、設備の充実と共に、何より市民の皆様のご理解、ご協力そして、これからの人材の育成に向け、様々な専門的な指導、取り組み、子どもから大人までスポーツにふれあい、興味を持って頂く事や、情熱を持って取り組

む事、そして多くの方々を受け入れられるハードとソフトの取り組みの重要性を実感致しました。2020年東京オリンピック パラリンピックの開催に向けて、更に開催後の未来に向けても、今回の視察を大田区の取り組みに活かしてまいりたいと思います。

(大田区議会民進党)

石川県小松市、木場潟カヌー競技場の視察を終え、所感を述べさせていただきます。

木場潟カヌー競技場は、1周6.4キロメートルに及ぶ園路で囲まれた木場潟という、自然豊かな公園の中に存在しており、その広大さに目を奪われた。木場潟カヌー競技場は、1,000メートル×9レーンを有するが、日本国内に、この規模のカヌー競技場は他に香川県府中湖カヌー競技場しかなく、ジュニアの世界選手権や北京オリンピックのアジア予選、日本選手権(毎年)がここで行われていることは、ひとえにレース環境が優れていたからに他ならないと考えることができる。

大田区の大森ふるさとの浜辺公園から各運河をコースと比較すると、木場潟カヌー競技場は潟という特性もあり、「レース環境」という意味では優れているように感じた。日本海から5キロメートル以上内陸にある立地は、レースに大きな影響を与える海風をある程度防ぐことができる、また担当者のお話によると、水質の維持に多大な努力を払っているとのことであった。これは、常設のカヌー競技場を置くことのできない大田区からすると羨望せざるをえない点であると考えます。

また、コース以外の付帯設備についても、艇庫、栈橋、スロープ(カヌースプリント)、専用モーターボート(審判、監督用)、堅牢なウエイトトレーニング施設を擁している。

特に訓練施設に関しては、オリンピックごとの変更(種目変更 1,000、500、200といった距離、船の種類、乗り込む人数、男女による差異など、急流を下るスラロームなどオリンピックごとに変更される 選手の訓練も異なる)に対応できる機能が持たされており、大田区としても今後できる限り周辺整備に取り組む必要性を感じる。

なお、小松市では、スポーツ教育として、スポーツ科学に精通した北陸体力研究所に委託する形で、各種トレーナーの派遣や、医科学サポートを受けており、例えば、幼児のコーディネーショントレーニングや運動教育に関するDVD配布、小学生向けの走り方教室、各種競技団体と協働でスポーツフェスティバル(もちろんカヌー体験もあり)の開催などを行い市を挙げて取り組んでいる。個別のカヌー体験やおおたスポーツ健康フェスタなど、当区でも類似する取り組みは行っているものの、今後なお一層の努力が必要に感じた次第である。

(たちあがれ日本)

北陸2日目は、小松市にある小松市営木場潟カヌー場を視察した。

東京オリンピックのカヌー会場が「海の森」になりそうな為、我が国に二箇所しかない国際大会が出来るこの競技場を視察箇所を選択したのだ。

また、このカヌー場はナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設として国の指定を受けている施設だとのこと。各種大会だけでなく、我が国代表選手の訓練施設としても使われているとの説明があった。が、国家的事業の施設の割には、トレーニング器材も古く誠に哀しい強化施設と言わざるを得ない状況であった。

ただ、艇庫などの使用料が無料とのこと、地元の高校なども利用しているとのこと。大田区も多摩川河川敷などに同様の艇庫を整備し、カヌー人口の拡大が出来るのではと感じた。

(大田無所属の会)

スポーツ振興の取り組みについて、主に木場潟カヌー競技場の運営実績を通して伺ってきた。

小松市ではスポーツ推進計画を策定し、市内の取り組みを進めているが、中でも注力しているのが市の財産でもある木場潟を活用したカヌー競技だ。主な実績として、北京オリンピックアジア最終予選や日本カヌースプリント選手権など。これら大会の誘致に至るまでには小松市の努力が窺える。1991年に木場潟を国内唯一のカヌー専用競技場として整備し、ナショナルトレセンにも選ばれるなど、これまで実績を積み重ねてきた。また、専門職のスタッフを配置し、競技選手のニーズに寄り添う柔軟な対応も行ってきている。こうした経験と実績をもとに、競技選手のみならず地域住民や学生、アマチュアの競技者などにとっても魅力的なスポーツ施設として地位を確立してきている。その上で、市民とのスポーツ交流に活用したり、市内学校にステージを提供したりと、様々に活用を図ることを可能としている。

各種スポーツ選手にとって競技会場の確保は常に付きまとう問題であり、自治体に求められる役割は極めて大きい。また、競技場を作ったからそれでよし。という事では無いことを小松市が証明してくれている。大田区でも今後、新スポーツ健康ゾーンをはじめ、様々なスポーツ施設が作られていくと思うが、ハード・ソフト両面からのきめ細やかな整備が必要だと感じる。

